

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第10号



今年度の事業を 多角的に検討

平成十九年度第一回
社会参加推進協議会

年度始めの社会参加推進協議会
は、人事異動で初めて出席さ
れた行政関係の担当の方々がフ
レッシュなお話を聞かせてくだ
さいます。

みなさんがこんなにたくさん
の事業をしていることに、敬意
を表しますとか、初めて聞くこ
とが多くてほんとうに勉強にな
りましたなんていわれると、う
れしくなっつてつい口元が緩ん
できます。

同じ障害者同士でも、知らな
かったことを初めて知る機会に
もなるこの事業、今年も幾つか
の「初めて」にめぐり会えるこ
とを願って事業をすすめていき
たいと思います。

座談会

楽しんでら

へえーと感心したり

今年の事業はいろいろユニークです

田口秀之助 (さいたま市身体障害者福祉協会)
 渡邊シヅ子 (さいたま市障害児のための連絡会)
 川島 哲也 (さいたま市精神障害者家族会連絡会)
 佐々木二男 (さいたま市障害難病団体協議会)
 浅輪田鶴子 (司会)

浅輪 今年度の生活訓練等事業等を決めていく段階で、事業委員会や社会参加推進協議会で説明を聞いていて、これは面白そう、是非たくさんの方に参加していただきたいと思うものをPRしたいと思って、ご都合のつく方にお集まりいただきました。まず、田口さんから。

身体障害者が

運転免許をとるには

田口 最近、障害者や高齢者が非常に多く交通事故に遭っていると聞いて、この事業を思いつきました。講師は日本で最初に身体障害者の自動車教習所を開いた新座の東園^{あずまの}へお願いすることにしました。ここは藤森さんという人が、初めは教習所を転々として借りながらやっていたんです。

浅輪 藤森さんはどういう方なんでしょうか？

田口 藤森さんは運転手さんだったので、修理のために車の下に潜っていて、そこを追突されて両足切断となってしまった人です。障害者になり、障害

者も社会生活のためには車を運転しなくてはと思い、教えることを始めたそうです。

東園は国の援助を受けながら、通うことができない障害者のために助成金を貰って寮を建てたそうです。昭和五十七年に財団法人になりました。雇用促進事業団から身体障害者能力開発助成金を受けて、身体障害者が無料で免許が取れる講習を始めたんです。所得制限がありませんが、年間十人はお金を貰いながら、免許が取れます。このような制度があることを皆さんに知ってほしいと思います。日本全国で二箇所しかありません。



田口秀之助さん

浅輪 知的障害は判断力の問題だから難しいかなあ。

田口 手が悪くて運転しても大丈夫なのかとか、いろいろ聞いてみたいですね。専門の教官が来てくれるので、より深く分かると思います。

自分の体のことを

知ること

浅輪 佐々木さんのところは、姿勢の不思議ということですよ。これは肢体不自由の方のことですか。

佐々木 主体はそうですね。今親子参加の体操を、月に1回、一般の方もどうぞというかたちでやっています。知的障害の方も見えています。動かないものを動かせるということも面白いんですけど、自分の体のことを知るということが中心ですね。うちの歩歩舎は養護学校を卒業した心身障害の方が多くいます。入所後、時々養護学校の先生が訪問してくれるんですが、十数年前のこと、先生が本人の体にふれ「落ちたねえ」って言うんですよ。学校にいるときは

体操をやったりしていろいろできることがあったんだけど、デイケア施設に入ったらそういういた能力が落ちたって言うんです。職員は頭にきちゃってね

(笑)。でも、機能低下は考えられます、やれないから。施設の中でも学校と同じように運動を重点的にやらないと生活能力が退化してしまうんです。ですから歩歩舎では運動をうんと重視してやっているんです。ところが、理論的に一定のものを保持していないと、ただ真似してやればいいという問題でもない。たまたま市立の養護学校にいて今は転動した和光養護の鈴木先生が歩歩舎の近くにお住まいで、動作法っていうのをやっているという話を聞きました。動作法っていうのも珍らしかったし、姿勢の不思議っていうのも、言葉そのものに魅力を感じて先生に来てもらってやってもらったんです。僕らがまず体験をしたんですけれども、自分の身体がどうもまっすぐ歩けないと

か、身体がちよっとかしいでいるとかいうとき、少しのアドバイスで、できちゃったんですよ。



佐々木二男さん

浅輪 それって、どっかが麻痺していてもできるんですか？

佐々木 そうなんです。身体障害の方は、脳性麻痺の方が多いんですよね。脳性麻痺の障害児の動作改善が始まりだったんです。ある人が、障害を持った方に催眠術をかけたんだそうです。そうしたら、今までできなかった動きができたんです。そのことを受け九州大学の成瀬悟策先生がためしたらやはりそうだとということがわかった。つまり催眠術をかけると動いて、解けると動かなくなるんです。どうしてだろうと考えて、脳性麻痺で手足が動かないのは

脳損傷のためでなく、心理的なものではないかという仮説を立てたのです。

実際うちの施設に月に一回集まって、障害児が特に多いんですが、介助に頼らざるを得ぬ身体をしているんですけれども、先生がうまくリードしてやっていると、結構うまく動かないところが動いて、親もびっくりしてしまいました。月に一回やってもしょうがないことだから、親がやっぱりそういうことを知っていて家でもやるのがいいと、親子体操という名前にして、「歩歩舎姿勢のふしぎ」の会ができました。鈴木先生だけじゃなくて仲間先生たちも大勢いて、ときにお客さんよりも先生たちの数のほうが多いんです。だから養護学校の先生に広めて欲しいねという話をしていたところ、この生活訓練等事業の話になりました。是非、養護学校の先生も、障害者も障害者の家族も参加をして、一度魔法にかかって欲しいという思いで取

り組んでいます。

浅輪 訓練の効果が上がるのは、若い人とか子供のほうがということがあるんですか？

佐々木 大人でもお年寄りでもいいと先生は言うんですけど、動かなかったところが、動いたということがあるんですが、健全の人と同じように動くということではないんです。それは無理、もともと障害があるのですから。どうしてそういうふうにやったらそれが動くかということを自分で訓練して会得するということだと思えます。

浅輪 心理的にできなくなっているということはどうやって解決していくんですか？

佐々木 先生が言葉をかけながら、見つけるんです。そして褒めるんですね。褒めながら進めるんです。本当に魔法です。言葉のマジックともいえるかもしれない。笑顔を絶やさずに接します。

この講座の中でも取り上げていきたいんですけど、パントマ

イムで、ないものがあるように表現することがあるでしょ、ないものがあるように思う。あれもちよつと体験してもらおうと思っけています。丁度よく鈴木先生は学校演劇を指導されていたので、無理にお願いして台本を書いてももらいます。会場は、交流センターでやろうと思っけていたんですが、もうすでに予約が入っけていました。五十人ぐらいは可能なので、歩歩舎にて開催します。



浅輪田鶴子さん

浅輪 車は止められますか？
佐々木 そばの小学校や近隣の方々に協力していただきます。

薬と離れられない

精神の教室

浅輪 精神のほうは予定してい

たものと、少し変わるといことでしたけど……。

川島 当初は煮詰め切れなくて3つほどテーマを挙げていたが、そのうちこれが一番いいだろうということになりました。110番電話相談での皆さんの想いを意識しながらいこうということを取組んでいます。あまり目新しいアイデアではないんですが、精神は他の障害と違っけていまして、障害であると同時に病気も進行しているわけですよ。身体の障害も一部そういう部分はあると思っけています。絶えず医者にかかって薬を飲むという状態が続っけています。将来医療とか薬の進歩によっけては、かなり改善されるのではないかと思っけています。そういうことから、講演といっけても、皆さん一番興味があるのは病院の問題であり薬の問題なんです。しかも家族と当事者は病院の先生に対して弱い立場にあるんですよ。言いたい事も言っけていく。



川島哲也さん

浅輪 医者の問題、薬の問題は

いつもあるテーマなんです。

川島 例えばさいたま市の場合、家族会連合会の各構成家族会でやる場合も医療講演会が一番人気があります。人が集まるわけですよ。個々の家族会でやる場合には、お金の問題や地域の問題がありまして、なかなか偉い先生に来てもらうことができないんです。

これまでは家族会が中心となっけて運動してきまして、去年あたりから、当事者会が市障協にも加わるようになりました。協力し合っけていききたいと思っけています。今年は当事者会と一緒にやりますが、来年は当事者会が別に企画を立てるかもしれない。

佐々木 本人同士の集まりの中

で、いろいろな経験をされるのはいいことかなあと思っけています。

川島 統合失調症も症状は、千差万別です。

田口 同じじゃないとすると、治療はまったく違っけてしまうわけでしょうか？

川島 まったく違っけていうわけではないんですが、その人にあつた薬を先生が考えるといっけて感じます。

田口 精神の家族会は統合失調症の方の家族が多いのですか？

川島 特に統合失調症の方に限定してはいるわけではないんですが、九割は統合失調症ですね。はつきりは言えませんが。統合失調症かうつ病か判断が下せない場合も多いんです。先生によっけては病名がわかっていっけても言っけてない場合があるんです。

神秘的で楽しい

音楽療法

浅輪 どうして音楽療法をやるのか、何を伝えたいのかお話し

ください。

渡邊 音楽というのはすごく神秘的なところがあって、精神や身体にいいことなら何でもやるうということではじめました。

浅輪 実際、かものみやでは音楽療法をやっているんですか？

渡邊 うちのは高齢者向けって言うか(笑)、やっぱり対象年齢に合わせた音楽っていうのがあるそうです。なぜ、かものみやって昭和初期の歌ばかりやるのかあと思っただんですが、童謡でもないポップでもない曲がいいらしい。歌詞カード作ってきて模造紙に書き込んでやってくれます。

浅輪 音楽療法士って資格があるんですね。

渡邊 そうですね。民間の学会の資格です。九十歳を過ぎて頑張っている日野原重明さん(医師・聖路加国際病院理事長)日本音楽療法学会理事長、全日本音楽療法連盟会長が勧め、音楽療法の普及等に尽力されています。

佐々木 童謡専門にやっているそうですね。

渡邊 会では、子供達を対象の「音楽療法教室」を毎月、第3日曜日にかものみやセンターで開催中です。



渡邊シツ子さん

川島 音楽療法っていろんな人に効果があると思います。家族会で合唱団に入っている人もいます。高齢者の施設では、幼稚園の子供たちの合唱とか、大人の人たちの楽器のグループとか結構人気がありますね。女の子の人が非常に楽しんでますね。音楽は不思議です。

佐々木 僕のところもひと月に一遍来てくれるんですけど、来月が楽しみななっちゃいます。そうすると希望が持てるわけ。音楽療法ってすごいなあ

思う。笑いもある。ちよつとしか動かない人が、同じ動きなんだけど、こんなにたくさん動いたって気になれるのです。

田口 演劇的かも……。

渡邊 天岩戸の神様とか御詠歌とか……。

佐々木 神様たちが歌ったり、踊ったりとか……。

田口 大勢でやるとすごいいよね。

自信と希望を与え、助け合って

浅輪 最後に何を伝えたいのかを話していただいてまとめたいと思います。

渡邊 単純に、病気にね、とても効果があるとされる音楽療法ってというのがあるんだよっていうことを伝えたい。

川島 いろいろな病院や薬の効果をめぐると話については皆で考えたいし、要望を出すときにはできるだけ大きな声で伝えたいと思ってるんです。一方当事者の方でも元気に活動している方がいらっしやいますので、元

気な活動が他の人の励みになればと思っています。でも、当事者があんまり頑張りすぎますと、良くないのでその辺、家族会としてある程度気をつけてやらないといけないと思います。

佐々木 俺ダメって思っちゃってる人とか、うちの子はもうどうしようもないのよっていう人たちに自信を与え、希望が持てる体験ができると思います。そういう体験をお互いしてみませんかということですよ。

田口 障害者が交通事故に遭わないように。本当に高齢者とか障害者は危険です。動作が鈍くなっていますから、そういうことで少しでも遭わないようにするためにはどうすればいいかということを考えたいです。

浅輪 みなさんの想いを込めた企画ですから、参加する方がたくさん居て、生きる勇気をいっぱいもらえたらすてきですね。ありがとうございます。

多くの障害者の要望を反映した企画を立てて…

平成十九年度第一回社会参加推進協議会報告

5月29日第一回社会参加推進協議会が開催されました。

加盟障害者団体委員、市障害福祉課・市保健所精神保健課・市社会福祉協議会あんしん事業課からも委員の出席がありました。

細見課長補佐より19年度の実施予定事業の説明がありました。

センター運営事業、生活訓練事業は昨年と同じ予算。「障害者週間記念事業」については、企画によってきめたい。会場は「与野本町コミュニティセンター」を予定しているということでした。

「障害者週間記念事業」は浅輪副会長を執行委員長に各団体より委員を出していただき企画を立てていきます。物品販売も

音楽もできるようなのでこの会場が良いのではないかと思っております。

「障害者110番運営事業」「相談員活動強化事業」が県事業になり、19年度から廃止されると説明がありました。

今年度の事業は生活訓練事業4、家族教室開催事業6の計10事業になります。

市の担当者からも生活訓練事業のなかには「障害者週間記念事業」の催しに入れたほうがいい企画があるように思える、そのほうが市民の障害に対する理解が得られるのではないかと発言があり、検討することになりました。

「障害者110番」運営事業はぜひ残していただきたいとの相談員からの要望があり継続要望書

を提出しました。

これからも復活の可能性はないのかとの質問には、「難しい」という回答でした。

しかし私たちは続けていくべき事業だと考えています。

相談員に対して継続か廃止かとのアンケートでも、ほとんどの相談員が継続すべきだ、との回答でした。障害者同士として

気軽に相談できる。地域のことがよくわかる我々が相談に対応できるので続けたいとの声に、いままでどおりの日程で、午後一時～四時まで各相談員が自主的に実施しています。

市報に「障害者110番相談」は終了しましたと掲載されましたが、引き続き行っていることを載せていただきたいと思います。

平成16年の「社会参加推進セ

ンターだより」に、「社会参加推進協議会」の役割として「行政のほか、身体障害者、知的障害者、精神障害者の各団体の要望が適切に反映されるよう、運営されなければならない」と、市障害福祉課の井上さんが解説されています。

私たちは各団体の要望を取り入れ、多くの障害者の参加ができるようすすめていきます。

さいたま市社会参加推進協議会
委員長 田口秀之助



平成19年度 社会参加推進センター開催事業一覧

事業名	開催日／場所	対象／定員	テーマ・内容等
家族教室開催事業 (身体)	8月5・19・26日、9月16・23日の(全て日・祝日)全5回 大宮ふれあい福祉センター	難聴者とその家族ほか 30名	手話の実技指導と難聴者の体験発表 家族間の円滑なコミュニケーションを図るため、初歩程度の手話の学習をします。
生活訓練事業 (身体)	9月8日(土) 集合場所 シーノ大宮センター プラザ入り口前(2階) 報告会 埼玉トヨペット(株)本社 3F会議室	市内在住、 又は在勤・ 在学の方 50名	障害のある人もない人も一緒に街を歩いてみませんか?グループに分かれ、それぞれプラン(行き先は市内)に沿って出発。見たり・食べたり・話したりしてお互いに交流を深め、理解し合い支え合う大切さを感じたいと思います。
家族教室開催事業 (身体)	9月15日(土) 埼玉県障害者交流センター	市内在住、 又は在勤の方 障害児者と家族 100名	「音楽療法って…なあに」「音楽」の持つ不思議な力を、様々な障害へ応用する理解と実践を学びます。 第1部 講演「音楽療法の理論と実践」講師:大澤和子氏(音楽療法士) 第2部 「楽器を奏でうたいましょう」
家族教室開催事業 (精神)	9月16日(日) 浦和ふれあい館	市内在住、 又は在勤の方 150名	精神保健福祉に関する講習会 第1部 「精神科医療について考えよう」 第2部 「ウィーズ(雑草)は育っています」 当事者会のメンバーによるディスカッション
家族教室開催事業 (知的)	10月23日(火) 埼玉県障害者交流センター	市内在住、 又は在勤の方 60名	「成年後見制度」その実例と活用法 「契約」という名のもとに成年後見制度の重要性が叫ばれているなか、身近に起こる具体例を挙げ、成年後見制度の上手な活用法を学習します。
家族教室開催事業 (身体)	10月14日(日)(予定) 埼玉県障害者交流センター	市内在住、 又は在勤の方 50名	「障害者が交通事故に遭わないために」身体障害者は運転をしなくては、社会生活に支障が多いが、障害者、高齢者は事故を起こす確立が高く、交通事故に遭う率も高くなります。身体障害者に運転免許を取得させる事業を行っている東園自動車教習所の方にお話を伺います。
生活訓練事業 (身体)	11月18日(日)(予定) 桜木公民館	内部障害者 とその家族 80名	医療講習 第1部 医師による医療講習 第2部 ストーマケアについて(WOC ナース) 補装具業者による製品展示会
「障害者週間」 市民のつどい	11月23日(祝) 与野本町コミュニティセンター	市内在住、 又は在勤の方	「障害者週間」を記念して広く市民といっしょに障害について考える催しです。詳細は未定。
生活訓練事業 (身体)	12月9日(日) 与野本町コミュニティセンター	市内在住、 又は在勤の方 90名	視覚障害者のための、音声装置によるパソコン、拡大読書器、などの日常生活用具を開発している業者を招き、説明を聞き、実際に体験していただきます。
生活訓練事業 (身体)	平成20年1月13日(日) 開催場所未定	市内在住、 又は在勤の方 60名	「詐欺防止!」だまされていませんか?ねらわれています!詐欺、インチキ商法など、手話で勧誘し、耳の不自由な私たち、聴覚障害高齢者を狙っています。だまされないように、分かりやすい話を聞きましょう。
生活訓練事業 (身体)	平成20年1月19日(土) 歩歩舎	障害児・者 と家族及び 施設職員	動作法によるからだの訓練「姿勢のふしぎ」体験学習会 講師:鈴木芳宏氏(日本心理リハビリテーション学会スーパーバイザー 養護学校教諭)

※(注)上記の掲載内容は平成19年7月現在の予定で、変更になる可能性もあります。

なお、今年度の障害者110番相談事業は、さいたま市障害者協議会の自主事業として月～金(祝日を除く)の午後1時から4時まで実施されています。ご活用ください。

運転免許で生かされた わたしの人生

平林 彰

近頃、時々考えることがあります。「さて、この身体であとどのくらい自分で車を運転できるだろうか」「そろそろ自分で車を運転しない生活について考えておかなくちゃ…」

思い返してみれば、2歳チョット前にポリオに罹り、当時は両手足が操り人形状態で全介助が必要だった私が、曲がりなりにも人の親となり、6歳をすぎた今日まで、意欲を失わず生きて来られたこと自体、夢のような感じですよ。

自分の生い立ちのような話になりますが、養護学校も障害児学級もない時代、地元の小学校へ、母親が毎日私を背負って通ってくれました。中学校へは兄の手作りの車椅子を押してもらっての通学で、まさに、親、家族の全面的な犠牲よって私の就学権が保障されたわけです。

その後、地元の県立訓練施設、東京の国立訓練施設などを経て、上京時には思いもよらなかった一般企業への就職が叶ったのは昭和38年、時あたかも「東京オリンピック」の前年、日本が高度経済成長期を進み始めた頃でした。

そして、それはモーターゼー

ションの始まりでもあり、「障害者であっても、運転免許を取って就職したい」「いや、障害者だからこそ運転免許を取らなくて…」という障害者仲間の中でその気になって、「あんたは重度だからネエ」と渋る試験官を拝み倒して受験したものでした。

「車の運転が出来るようになった」。このことは、私の行動範囲だけでなく、社会的活動の範囲を飛躍的に広げることになりました。

人生に「もしも」はない、とも言われますが、もしもあの時、若さに任せた免許取得がなかったら、今の私はなかったことは間違いありません。

せいぜい撰生して「1日でも長く運転を続けられるように」と思う今日この頃です。

事務局だより

八月から今年度の生活訓練等事業が始まります。トップバッターはさいたま市難聴者・中途失聴者協会の手話教室です。この手話教室は、初心者が参加できる手話の講習会で毎回とても和やかで楽しく、リピーターが多くて好評です。団体の会長のキャラ(いつもニコニコ)が大きく影響していると思います。去年最終回で撮った写真では、みんなニコニコしています。障害のある人もない人も一緒になって学ぶ講習会です。今年も楽しみな事業の一つです。

内にこもっていても、何も楽しいことはやってきません。なんかちょっとでも、心に引っかかったら、外に出てみるのだと思います。この事業がそんなきっかけになるといいと思います。

(U)

リレートーク わたしはわたし



平林彰さんプロフィール

1943年、富山県生まれ、2歳の頃ポリオにより、両上・下肢重度機能障害をもつ。
障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会・前会長、身体障害者相談員



発行 さいたま市障害者社会参加推進センター
〒333-0801
さいたま市大宮区土手町
大宮ふれあい福祉センター4F
TEL/FAX 048-653-7271
○四八六五三七二七一

発行人 望月 武
編集人 浅輪 田鶴子